

▶ 「いじめ」について考える

14日(土)道徳授業地区公開講座では、いじめの「加害者の人生」について視点をあて、道徳の授業を行いました。

人には誰にでも思い出したくない過去があります。みなさんにも1つや2つはあると思います。題材のいじめの加害女性は、22年も前に、人を傷つけてしまったことを悔やみ、今もその記憶は消えそうにありません。新聞社にFAXを送り、「謝罪したい。」と訴えたのは、なんとかこの辛さから逃れたいという一心だったと思います。でも、その思いは叶いませんでした。

「会いたくない」という気持ちを聞いたこの女性はどう思ったでしょうか。おそらくショックだったと思います。それは被害女性の「忘れていない。許していない。」というメッセージなのですから。

授業では、加害女性はこれからどう生きていけばよいのかを考えました。グループの意見では「自分の子供に、いじめはしてはいけないということ教え、自分と同じ道を歩ませない。」「心の中で謝りながら、生きていくしかない。」「いじめてしまった後悔を背負って生きていく。」などの考えがあげられました。

「一生の中で何一つ罪を犯すことがない」という人はいません。もちろん罪を犯す人は少ないでしょうが、人の心を傷つけてしまったり、人を裏切ったりすることはこれからもあるかもしれません。

もし、これからそんなことがあって、自分自身が自責の念を抱き、辛い気持ちになったら、目を背けることなく、人に責任をなすりつけることなく、みなさん自身が

写真掲載

写真掲載

写真掲載

しっかり受け止めてください。

自分の罪に対してしっかり向き合うことができる人は心が強い人です。そして、優しい人になっていて欲しいと思います。

写真掲載

～授業の振り返り～(生徒の道徳ノートより)

- ・一度してしまったことは二度と消えないことから、自分がしてしまったことと向き合って反省しつつ、今後の自分の行動に生かしていくことが大切。
- ・自分はやらないようにしたいと思う。でも、何気なくやっている行動が「いじめ」になってしまうかもしれないということをしっかり頭に入れておきたい。
- ・自分も他人も、絶対に間違わず正しく生きるのは不可能だし、罪も消えない。一生つぐなわなければいけない。自分がこの先、どうすれば自分の正しい道と思える道を通れるのか考えて生きていきたい。
- ・自分がやってしまったことを忘れず向き合っていくことが大切だと思う。軽い気持ちで相手を傷つけると、それが後から自分に返ってくるから、相手の気持ちを考えて行動しようと思った。
- ・過去が消えないのがすごく怖いなと思った。だから、これから自分で正しいかどうか考えて行動していきたい。

写真掲載

▶ 来週の予定

日にち	授業・行事予定
9/23(月)	振替休業日
9/24(火)	中間考查 ①数 ②英 ③理 ※給食なし 12:30完全下校
9/25(水)	中間考查 ①社 ②国 ※給食なし 11:30完全下校
9/26(木)	通常時間割
9/27(金)	通常時間割 ④TGG オリエンテーション 放:英検あり

※24日・25日の部活動は原則ありません。